



第5話 今のまちづくりはどうなんだ？

公おじさんと、創おじいさんがまちづくりについて話しているところに、お隣の育おばさんがやってきました。

むずかしそうな顔をして何をお話しなさっているんですか。
 いやあ、街づくりの昔と今の違いについて話をしているところなんだよ。
 これまでのまちづくりは、道路整備や住宅団地などの開発にしても、施設自体が不足していたので、その機能を確保することに主眼が置かれていたのです。その結果、どうしても住民への配慮に欠けるところが出てしまったのです。今では、私たちがとりまく社会環境が大きく変わり、ゆとりや潤い、個性などが求められるようになってきていますよね。
 確かにそれはあるな。昔のように機能だけを確保すればいいってもんじゃないな。駅前や町中でもちょっとした広場があると安らげるし、生け垣などのみどりの多い通りなんか散歩コースに最適だよ。
 そうですね。まちづくりには、住んでいる人や利用する人の心地良さといった視点が非常に大切なんです。たとえば、道路を造るにしても、車が走るためだけでなく、歩きやすい歩道を設置したり、街路樹を植えてみどり豊かにするなど、環境に配慮した快適な空間になるように考えられてきていますよね。
 わたしは、子供からお年寄りまですべての人が、不自由なく活動できるように街づくりをしていくことが大切だと思いますよ。バリアフリー（高齢者や障害のある方が、生活をしていく上での様々な障壁を取り除くこと）とかユニバーサルデザイン（すべての人が使いやすい、商品から

まちづくりまでのデザイン）がさまざまな所で配慮されるようになってきましたよね。また、大地震への備えも心配ですね。安心して生活できることが何より大切なことですから。

ほかに地球温暖化だとか循環型社会などの大きな問題もあるな。
 お二人から難しい言葉が次々と出てくるように、本当に価値観が変わってきていますね。
 街づくりに限らず、これからは環境にも住む人にも安心できる社会にすることが大切だということだろうな。しかし、色々なことを配慮して街づくりをするといっても、我々の思いとは別に、役所の内部で決めて事業を行っていくんじゃないのかい？

今は、区などの役所も、住民をはじめ、利用者を含めた幅広い人たちと計画段階から話し合っているようになってきたのですよ。



だから、おじいさんの使った「街づくり」という言葉から、今はもっと広く、ハード（施設や整備）からソフト（使い方）までの意味を含めた、ひらがなの「まちづくり」という言葉が使われるようになってきたのですよ。

それじゃあ、これからは、私も様々なまちづくりの話し合いの場に参加して、積極的に物申していこうじゃないか。それが子供や孫に、住みよいまちを残してやれることになるからなあ。

そうですね、私たちが力を合わせて住みよいまちにしていけることが大切なんですね。

今回は「さて練馬区のまちづくりの方針は」です。お楽しみに。



甘藍と書いて何と読むか、ご存知ですか？ヒントは、練馬でも生産量の多い野菜です。練馬の野菜といえば昔は練馬大根が有名でした。しかし、昭和20年代に発生した「だいこんウイルス病」により衰退の一途をたどり、今では練馬区が特定の農家に栽培を委託して、かろうじてその姿を見ることができただけとなりました。
その大根に代わって栽培されたのが甘藍。今では区内の作付け面積の3割近くを占め、都内における一大生産地となっています。
その甘藍を記念して建てられた碑があるというので出かけてみました。区立石神井小前の交差点の一角、JA東京あおば石神井ファーマーズセンターの隣にその碑は建てられていました。遠くから見ると、黒い石碑の上に銀色のボールのようなものが飾ってあるように見えます。近づいてみるとそれはまさしく甘藍をリアルに模ったもの。何ともユーモラスなこの碑、東京ふるさと野菜供給事業の25周年を記念して建てられたものでした。

ねりまと「甘藍の碑」

おもしろ風景館 Omosiro Fukeikan



甘藍の栽培の歴史は古く、原産地は地中海・大西洋沿岸で、紀元前600年頃ケルト人によってヨーロッパ各地に伝えられたと云われています。日本に伝えたのは江戸時代のこと。当時は観賞用が主で、食用として一般的になったのは明治以降であり、とんかつに添えられ人気が出たのは昭和に入ってから。「五臓六腑を利す」の言葉のとおり、身体を活性させる成分を含んだ優良野菜でもあります。
練馬区は23区の中でも屈指の緑豊かなところ。それを支えているのが農地の緑であり、甘藍畑なのです。都市における農地は、大気の浄化や地下水の涵養、季節感のある景観を与えてくれるなど多様な機能を持っています。
しかし、年々開発などによって農地が減少し、それが練馬区の緑の減少にもつながっていることも事実です。恵みのある緑として大活躍している甘藍。甘藍畑の風景がいつまでも見られる練馬区であってほしいものです。
甘藍の碑（石神井台1の1）
 おもしろいな、何だろうなと思ふ風景を見つけたら、是非情報をお寄せ下さい。

編◆集◆後◆記

川といってイメージするのは、やはり山間を流れる清流。「どんなまちに住みたい？」と聞かれたら、私なら真先に「水のきれいなまち」と即答します。水がきれいなのは、自然が豊かな証ですからね。
 夏になったらまた「踊りのまち、水のまち」で有名な岐阜の郡上八幡へでも訪れてみようと思います。とびっきり美しい鮎やアマゴがいる清流「吉田川」。町のいたるところに湧水がわき出て用水路が張り巡らされ、日常生活の中に流れがあって、快い水の音が聞こえます。
 都会の中で、ここまで望むことはできませんが、自然がくれた貴重な水辺空間を守っていく大切さは変わらないことを、今回取材をさせていただいた方々に改めて教えられたような気がします。（こもれば編集部）

INFORMATION

都市整備公社からのお知らせ

●石神井周辺で駐車場を決めるなら、石神井公園ピアレスパーキングがおすすめ
 石神井周辺で駐車場をお探しなら、管理員も常駐し、安心・便利な石神井公園ピアレスパーキングをぜひご利用下さい。

- | | | |
|---------------------------|--------------------------|---------------------------------|
| おすすめその1
石神井公園
駅のまん前 | おすすめその2
便利な
24時間営業 | おすすめその3
敷礼手数料
一切なし |
| おすすめその4
平日だけの
利用がお得 | おすすめその5
安心の
管理員常駐 | おすすめその6
お得な回数券・
プリペイドカードも |

全日定期 月 35,000円
 平日利用定期 月 18,000円
 時間利用 15分 100円
 問合せ 石神井公園ピアレスパーキング管理事務所 ☎03 5910 3981

●みなさんも「こもれば協力員」になってみませんか！

こもれば編集部では、まちの話題や情報を提供していただく協力員を募集します。みなさんからお寄せいただいた情報によって、より充実した紙面づくりをしていきたいと考えております。

- ◆募集人員 若干名
 - ◆対象 区内在住でまちづくりに意欲と関心のある方。
 - ◆期間 2年間（報酬はありません）
 - ◆応募要領 八ガキ又はFAXに、住所 氏名 性別 年齢 電話番号、FAX番号・メールアドレス（ある方のみ） 応募の動機および「こもれば」に対する感想を、ご記入の上、4月30日までに下記までお送りください。後日面会の上、決定させていただきます。
 - ◆申込先・問合せ 練馬区都市整備公社 こもれば編集部 〒176-8501 練馬区豊玉北6 12 1 ☎ 03 3993 3011 FAX 03 3993 3070
- 既刊の「こもれば」は、ホームページ(<http://www.zain-ntk.or.jp/>)でご覧いただけます。